

山田みやこの活動報告

令和元年10月9日(水)

とちぎ学生未来創造会議にて社会課題サロンを開催

会場 宇都宮大学 陽東キャンパス

ゲスト 中野 謙作氏(一般社団法人若年者支援機構理事長)

「地域に広がる子ども若者支援」

就労支援、経済的困窮者支援、ひきこもり、ニート、不登校、学習支援、子ども食堂などを実践してきた。その中で人口比6.5%いる発達障がいに対する受け皿がない。

「非正規雇用4割」一昔前の小中高卒業、大学進学後の正

規就労は現在わずか4割。当たり前ではなくなっている状況。トラブルは山積みになっている。

しかし、制度や仕組みがなくてもどんな人がそばにいてくれる人がいるかだ。まず食べる、相談できる、学べる居場所があるかである。安心をつくる、ここに居てもいいよ、というメッセージが発信できるかだ。関係性の貧困で孤立を防ぐことが第一。まず助けてといえる相手を見つける。支える側は一人で支えず、周りの人と連携することが支え続けられることに繋がる。

ゲスト 土橋 優平氏(NPO法人キーデザイン代表)

不登校・若者支援を中心に活動

- フリースクール「ミズタマリ」開設
小中高生の不登校支援

不登校の原因はいじめが7~8割。

ミズタマリを利用する子の保護者は、ミズタマリに子どもがいる時間、自分一人の時間が取れるため心の余裕が出てくる。子どもが家族以外の人とコミュニケーションが取れる様になると希望が持てる。

- 相談対応・生活支援

親からの虐待、いじめ、万引き、自殺未遂、摂食障害、将来への不安など、どこにも頼れず孤立している子ども・若者の相談を受けている。



※二人の話から

自立は依存することから始まり、依存先を増やすことで関わる人が増え、関わり方の役割が出てくる。関わる人(支援者)同士の繋がりができると伴走支援ができてくる。制度や仕組みがなくても、いつでもそばにいてくれる人(中間のつなぎ役)がいれば安心感に繋がる、ということを実感した。